「三井の歴史で頼れる存在」に聞く

公益財団法人 三井文庫 武田文庫長に聞く

三井の社会経済史料や文化史料の保存・研究・公開を担う公益財団法人三井文庫。江戸時代から戦後まで保管する三井関連の史料は約一〇万点、美術館部門の三井記念美術館の館蔵品は国宝・重要文化財を含め約四、〇〇〇点に及ぶ。三五〇年にわたる三井の歴史と文化は現在の三井グループに何を物語るのか。六月に田井常彦・前三井文庫長から職責を引き継いだ武田晴人・新三井文庫長に話を聞いた。

（吉澤大輔）

総合的経営史料が残る三井は経済史研究の要

東京大学名誉教授でもある武田文庫長は経済学博士。長年、日本経済史を研究し、近年は三井文庫の評議員も務めた。

武田氏　近現代の経済史は江戸・幕末・維新期から平成までほぼカバーしており、産業・経済史に加えて経済全体のマクロ的な変化も研究対象としてきた。三井は個別の形態では江戸期からの経営史料が総合的に残されている珍しい例。これは国内では三井と住友くらいしかなく、日本経済におけるシェアや影響力は圧倒的に大きい。三井や住友の研究は経済史家の研究対象の本丸と言える。

ただ、私はその本丸に切り込んだことはなく、財閥史として研究したことはあるが個別に三井の研究をしたことはない。一番詳しいのは銅山の産業史。四国の別子や栃木の足尾、秋田の小坂などを研究した。銅山を手掛けた財閥は住友や三菱、古河などで、三井の非鉄金属では神岡鉱山があるが、三井は銅山には携わっておらず、研究対象としては三井との縁は少なかった。

三井史研究はこれから三大財閥史の比較も

中野にある三井文庫の書庫には三井越後屋や三井両替店、三井財閥など膨大な史料が保管されており、今も研究が進められている。

武田氏　三井文庫は財団法人設立当初から専任の研究者を置き、毎年、研究論文を『三井文庫論叢』として発表している。現在まで五〇年以上に及び、一次史料を丹念に研究している。これは住友や三菱よりもずっと早い。膨大な史料を持つ三井だけが専任研究者を置き、史料公開もいち早く始めたので、三井史は他の企業集団と比べて研究が進み、日本の財閥史研究の一時代を築いた。

ただ、史料全てが精査・研究されているわけではなく、未だ研究されていない分野も多い。

例えば「江戸時代は地方も含めてどのように経済市場が発展してきたのかなど、全国にネットワークを持つ三井が研究の手掛かりとなる。地方経済史を調べると、三井と取引した例は多く出てくる。予想もしない史料から三井の名が出てくることもあり、こうした宝物のような対象がたくさん埋もれている。

近代史にも手付かずの研究が多く残されている。例えば、旧三井物産は戦前唯一の総合商社として研究価値は大いにある。ただし、近年は研究が細分化されている傾向にあり、全体像が見えにくくなっている。三井の全体像を再構成するような研究が求められる。三井の通史は既に『三井事業史』を刊行しているが、これが研究のゴールではない。二〇〇〇年代以降は住友・三菱も歴史研究が盛んに行われており、今こそ改めて三大財閥を比較研究するときにある。

また、三井文庫は若手研究員を育成する重要な機関としても知られ、大学院で研究を終えた学生が一次史料と格闘しながら経験を積む場所でもある。近年は東京大学の日本史学研究室に移った研究員や経済図書文化賞を受賞した研究員もいるなど、学会でも認められる成果と影響力を持つ。それができるのも膨大な一次史料があるおかげ。その気になれば博士論文がいくつも書ける。これは研究者の卵にとっても楽しく、経営史の専門家を育てる上で重要な役目を担う。

保存史料の劣化懸念デジタル化が課題に

貴重な経営史料が多く残されている三井文庫だが、一部の史料は劣化も懸念されており、デジタル化などの対応が求められている。

武田氏　日本の商家は昔から過去の記録を大事にする。特に三井は江戸・京都・大阪で記録を共有して残すルールがあり、残された膨大な史料はそれぞれの時代の当事者たちがきちんと残すための努力してきた結果。むしろ、明治以降の近現代の方が史料は少なく、近現代の系統的な経営史料は非常に重要になる。

三井グループ各社にも古い経営史料が残されていれば、拝見したい。

保存する史料には劣化の課題もある。江戸時代の和紙に墨で書かれた文字は保存性が高い一方で、明治以降の洋紙にインク書きは剥落して見えなくなる。貴重な史料はデジタル化すべきだが、膨大な量があり、予算や人手も限られるなかで、今後、史料のデジタルアーカイブ化をどのように進めるかは大きな課題。ウェブを通じた史料公開と合わせて検討していきたい。

三井文庫設立時に建てられた中野の書庫も築五〇年を超え、毎年、収集する史料もあるので、保管量のキャパシティはもう限界に近い。いずれは建替えも視野に対応しなければならない。

三井記念美術館15周年来館者は約240万人

美術館部門を担う三井記念美術館は館蔵品展のほか、様々なテーマの企画展を催し、三井の中心地・日本橋で賑わいを創出している。

武田氏　三井記念美術館は今年で開館一五周年を迎え、これまでに約二四〇万人を迎えた。展覧会のおよそ半分は館蔵品によるもので、それだけの数の美術品が現代に伝わることが素晴らしい。分野も茶道具、絵画、拓本、能面、刀剣、切手など様々で、その時代の三井家のステータスとともに、時代毎の三井家当主の趣味などもわかって面白い。美術品は散逸しやすいが、三井家は先祖代々の宝は伝統的に守ってきた。

コロナ禍のなかで、今後の運営や展示のあり方は状況に応じて変える必要があるが、三井グループの皆さんには是非、鑑賞してもらいたい。皆さんが来館することが職員の励みにもなる。

近現代史で決定的役割日本経済の発展支える

常に日本経済の中核を成した三井。特に近現代史における影響は計り知れない。

武田氏　三井は色々な局面で日本史に影響を与えた。例えば来年のNHK大河ドラマの主人公・渋沢栄一は三井の三野村利左衛門や益田孝を抜きには語れない。これは明治の近代化において、金融や貿易で三井が決定的な役割を果たしたことを意味する。三井鉱山も含めて戦前まで日本経済の発展は三井が担った部分が多く、二番手の三菱と比べても約二倍の規模があり、断トツのプレイヤーだった。

ただ、経営資源を金融・貿易・鉱山に集中させ過ぎたため、戦後は産業構造の変化に対応が遅れた。よく言われる「再結集の遅れ」は見かけ上の理由に過ぎず、三井の相対的な優位性は戦後も変わっていない。歴史はマイナスイメージを伴うこともあるが、三井財閥も含めた三井の歴史は非常に重要で、グループの皆さんには積極的に歴史を語ってもらえれば嬉しい。

賛助会社にも役立つ三井の歴史の専門家

三井文庫を支援する三井系賛助会社は五二社。三井の歴史の専門家集団は社員研修や社史編纂など、歴史に関わる場面で各社をサポートする。

武田氏　三井文庫の運営は三井系の賛助会社の支援に支えられており、新入社員の歴史研修やパンフレット・社史編纂のお手伝い、画像の提供など、様々な面でお役に立ちたい。三井の歴史に関する問い合わせやテレビ・新聞の歴史取材にも対応している。京都の重要文化財「旧三井家下鴨別邸」の公開では三井の歴史や展示品の解説など協力させてもらった。

また、倉庫などに保管している史料の価値がわからなかったり、史料を廃棄することがあれば、声をかけてもらいたい。学術的に貴重な史料であれば三井文庫で保管したい。「三井文庫は何をしているのか、どんな役に立っているのかわからない」と思われるかもしれないが、三井文庫は「歴史の宝庫」。三井の歴史における専門家集団なので、歴史に関しては頼れる存在として記憶してもらえればありがたい。

武田 晴人氏 略歴　七一歳。東京都出身。昭和五一年東京大学大学院経済学研究科修士課程修了、同五六年東大経済学部助教授、同六三年経済学博士（東大）学位取得、平成三年東大経済学部教授、同一四年東大評議員、同一八年三井文庫評議員、同二七年東大名誉教授、令和二年三井文庫長に就き、現在に至る。

人事異動

SMBC信託銀行

（9月27日付）

個人統括部長兼個人統括部個人業務管理室長（個人統括部長）シニアダイレクター＝早川 直志

（10月1日付）

理事　シニアダイレクター＝コーポレートスタッフ部門特命担当（経営企画部長）

執行役員　長坂 存也

個人金融部門特命担当（人事部長）

執行役員　福永 藤隆

経営企画部長（財務企画部長）

シニアダイレクター＝理事　宇波 大輔

※シニアダイレクター（理事）は執行役員に準ずる職責を担う役位

デンカ

（10月1日付）

◇組織改定

(1)人事部組織名称変更

・人財戦略の企画・立案・実行、ダイバーシティ推進および健康管理を経営戦略と連携を図り推進するため、「人事部」を「人財戦略部」に名称変更する。

(2)青海工場「安全教育部」の設置

青海工場の持続的且つ健全な成長に直結する本質安全化を追求するため、安全を創る人財の育成体系構築と教育研修の実行を担う教育機関として、新たに「安全教育部」を設置する。

◇人事異動

人財戦略部長（人事部長）　八木 信彦

Career Value-Up Center室長　青海工場特殊混和材部長（青海工場有機第三部長兼モノシラン課長）　湯舟 和之

大牟田工場生産技術部長　加賀 鉄夫

大牟田工場穴長　渋川工場品質保証部長（青海工場特殊混和材部長）　岩波 和英

エンジニアリング部渋川エンジニアリング部長（エンジニアリング部副部長）　田村 智幸

五泉事業所技術部長兼試薬開発部長　権平 文夫

五泉事業所技術部長（大牟田工場生産技術部長）　西村 浩二

五泉事業所副事業所長兼モノシラン課長（青海工場有機第三部長兼MCA課長）　野澤 恒嗣

同工場環境保安部（渋川工場品質保証部長）　岩佐 光芳

同工場安全教育部長（青海工場環境保安部）　秋本 正史

大牟田工場生産技術部副部長　大牟田工場生産技術部グループリーダー　小橋 聖治

五泉事業所研究開発本部試薬開発部副部長（ライフイノベーション部門ワクチン・診断薬事業本部試薬学術部副部長）　伊藤 康樹

デンカエラストリューション㈱（渋川工場穴長兼エンジニアリング部渋川エンジニアリング部長）　徹盛

総務部総務課長を解く　総務部副部長　平井 達行

総務部総務課長（千葉工場事務部業務課長兼物流統括部兼東洋スチレン㈱人財戦略部課長）　古田 昌司

人財戦略部課長（人事部課長）　赤塚 大輔

三井化学

（10月1日付）

三井化学SKCポリウレタン㈱企画管理部（佛山三井化学SKCポリウレタン有限公司総経理）　小幡 雅司

佛山三井化学SKCポリウレタン有限公司総経理（三井化学SKCポリウレタン営業部）　富沢 多問

ヘルスケア事業本部不織布事業部（台塑三井精密化学有限公司総経理）　清野 允中

台塑三井精密化学有限公司総経理（モビリティ事業本部機能性ポリマー事業部）　岩間 道夫

基盤素材事業本部石化原料事業部を解く

基盤素材事業本部石化原料事業部長　永野 伸一

基盤素材事業本部石化原料事業部アロマGL（基盤素材事業本部石化原料事業部アロマG）　堀 裕道

※GL＝グループリーダー